

放送人の会

No.57
2012.9.7

〒102-0094 千代田区紀尾井町1-1 千代田放送会館 3階

☎&fax03-3221-0019 Mail info@hosojin.com

代表幹事 今野 勉

編集担当 伊藤雅浩 (広報委員長・編集長)、鈴木典之、前川英樹 (HP担当)、松尾羊一 事務局 須斎恵美子

秋を迎えて二つのこと

法人化と日韓中

代表幹事 今野 勉

秋を迎えて、放送人の会が抱える二つの課題について、お話ししようと思えます。

法人化の件

一つは、放送人の会を、一般社団法人に法人化する件です。

現在の放送人の会は、任意団体ですので、行政機関や財団法人から交付金や助成金を受け取ることが出来ない場合があります。

昨年、札幌で行われた日韓中テレビ制作者フォーラムを開催するにあたって、ある財団法人から助成金の交付が内容的には認められたのですが、実際の交付金の執行にあたっては、他の法人に名義を借りなければなりません。金銭のやりとりのことですから、他の法人との間に名義を借りるにあたっての誓約書を交わすなど、事務的にも煩雑であり、精神的にも負担が重いものでした。

こうした状況を改善するのが、法人化の目的のひとつです。社会的な認知を得る組織になるということです。

もうひとつの目的は、この機に、会員の資格を、現実の「放送人」に合わせさせて枠をひろげようということです。

「放送」は無線電波によるものだけではなく、インターネットや有線(ケーブル)テレビなどにも広がっています。そうした新しい「放送人」も受け容れることができるように、一般社団法人化にあたって定款化しようとして作業を始めています。

実際に新しい放送人が入会してくるかどうかは、また、別の問題ですが、未来の放送界というイメージを描きながら現在の放送人の仲間と語り合える場としての放送人の会があつて然るべきであろう、というのが趣旨です。

一般社団法人になつても、放送人の会のありようは、現状とほとんど変わりません。定款上は「会員」が「社員」になつたり、「幹事」が「理事」になつたりしますが、実際の運用は、運営規則によつてこれまで通りにすることができます。

管轄官庁からチェックを受けたり指導を受けたりすることもあります。放送作家協会など業界の団体も一般社団法人化を済ませております。

日韓中テレビ制作者

フォーラムの件

今年度の日韓中テレビ制作者フォーラム

ーラムは韓国が当番国で、10月11日から慶州で開催されます。

設定されたテーマに則つて、各国の出品番組も決まり、準備は順調に進んでいるようです。

日韓中テレビ制作者フォーラムは、発足当初、歴史認識の問題をめぐって、分解寸前まで行きましたが、それを乗り越えて以降、相互の敬意を基盤に、理解を深め合つてきました。

秋を迎えて、日韓中の政治状況は、例年と違つて剣呑な雰囲気にあります。領土問題というのは厄介で微妙です。

おそらく、主催国である韓国の制作者たちは悩んでいると思います。テーマに則つて粛々とフォーラムを薦めることもできるでしょうが、今起きている、制作者にとつて重要な問題を、まったく素通りしてしまえば、日韓中のフォーラムの存在意義を問われかねません。

かといつて、では、この問題をどう扱うのか、といえ、そう簡単ではないことは、自明です。

私たち、日本の放送人の会の会員としても、ひとりひとり、放送にたずさわる者の使命に思いをいたす必要があるかと思ひます。

少し、心の重い秋になりそうですが、実りのある秋になるかもしれません。

恒例消夏座談会

2012年夏のジャーナリズム

【はじめに】

A 3・11から1年、8・15、つまり被曝と被爆、そしてオリンピック、メダルの過剰報道などがキー・ワードだろう。

民放は広告費の減少、震災報道による経費増大で厳しい経営下にあるが、NHKは受信料収入の回復で収支は黒字で受信料値下げを喧伝している。

民放終戦特集については90歳以上の戦場の兵士たちの遺言、終戦工作の破綻などの番組があった。そんな2012年の前半だがまず、ドキュメンタリーから

【ドキュメンタリー】

B NHKのE TV特集「ネットワークでつくる放射能汚染地図」シリーズは放送人グランプリでも表彰したが、これのインパクトは大きかった。原発デマなどの原点になった。5、6回やったが…

C 海の汚染を最初にやったのはネットワークシリーズだ。1月15日放送の「海からの緊急報告」は時期的に遅れたぶん詳しくあった。

D 昨日の新聞に出ていたが南海放送の「放射能を浴びたX年後・ピキニ水爆実験、そして…」(1・29放送)は東中野のポレポレで上映することだ。

A 5年ほど前に「地方の時代映像祭」

は同じだが映画化を意識したようだ。

B あの海域はマグロの捕れるところで、第5福竜丸だけでなくいくつかの船が操業していたはずだ。

C 大石又七さんが大江健三郎との対話のときいろいろ喋っていた。

D NNNドキュメント12「除染の島へ」島を追われて27年(8月広島テレビ50周年記念番組)では、アメリカの水爆実験で島を追われた島民を取材してきた写真家の写真を中心に番組を作った。前に島民が一度帰島したときは残留放射能が高く、病人が出、ダメだと島を逃げ出した。その後、除染され、島民は帰島するが、写真家も再訪する。2度にわたる島からの避難、放射能によるガンなどの被曝災害、帰還の難しさを追っている。

A 写真家は福島原発の被害者も訪れ、放射能被害の長期にわたる実態を説明した。ピキニの核実験とフクシマを結びつけたことを評価できる力作。

B NHKの「3月11日のマラー」は1年目の3月10日に放送された。予備知識が全くなしで見始めて面白くてびっくりした。

C 両国のすみだトリフォニーホールで、日フィルの拠点ホールだ。マラー

だから大編成のオーケストラ。

D すべての催し物が中止になった中で、あのホールだけがやっていた。客は100人以下で、オーケストラのメンバーの方が多かった。演奏は鬼気迫る素晴らしい演奏で、客とオーケストラがああ会場で指揮者を中心に一夜を過ごした。稀有の経験だとみんな感動していた。

A 僕は、あの時間に新橋演舞場で歌舞伎をみていた。花道で吉右衛門が見えを切っていたところに揺れがきた。場内騒然だが吉右衛門は立派なもので台詞を続ける。長くてちよつと声が震えたところだーん！と幕が引かれ、役者が全員出てきて「本日はこれにて」とおしまいになった。さすが役者魂だ。

B ETV特集「世界から見た福島原発事故」(4・29放送)外国の事例や有名な規制当局者へのインタビューを多く含み、地味だがよく出来た番組だった。

C ETV特集「花を奉る 石牟礼道子の世界」(2・26放送)は水俣病の話で、パークinson病でほとんど動けないのだが、話はしっかりとっていて、独特の感性にひかれた。

D 石牟礼と患者の間のお互いに励まし、励まされる関係がいまも続いている。先日亡くなった原田正純医師や彼女が一貫して追求してきた過程で関わった人々とその世界が見渡せる番組だった。

A Nスペ「調査報告 原発マネー」(3・8放送)をみると地元自治体は補助金漬けになっていてありとあらゆるお金が出ている。具体的な金額も明らかにされ、箱モノ行政などいろんな形の

お金の出所が明らかにされている。

B 福島の民放局のある役員は「大事なスポンサーにご迷惑になるから原発は扱うな」と報道に指示していた。

C 雇用、労働現場の問題が大きい。原発関連で働いている人は実に多い。620社下請けが入っていて、毎日3000人が作業に入っている。下請けはわかっている範囲では7次までに及んでいる。更にその下に大阪の暴力団が入って9次、10次とあるらしい。

D ETV特集「原発作業員」(8・19放送)で克明に描いていた。一度出て行った作業員が戻っているし、「放射能を分け合う」という言葉がある。あれは衝撃的だった。

A バレて騒ぎになったが、鉛のカバーをつけていたのは常態だったのだね。

B Nスペ「未解決事件ファイル2」オウム真理教「オウムVS警察知られざる攻防」はあまり感心しなかった。ファイル1のグリコ森永が良かっただけに残念だ。

C グリコ森永は面白くて、犯人はもう少しで捕まるところだったとまるでスリラーをみているようだった。新聞社の出し抜き合戦などもうまくまとめている。あの手法を期待したのだが…

D ETV特集「テレビが見つめた沖縄」(5・13放送)はよくまとまった作品だった。知花くららが知的な感じで好感をもった。

A 彼女のおじいさんが集団自決の生き残りだそう。

B CBC「おしゃべり独居ばあさん」

(5・30放送)を見た。おなじみ藤井

隆氏の作品だが、テレビ信州「豪雪の里の味あばあちゃん」(4・15放送)、静岡

テレビの鉄道の廃駅を使ってお弁当を

売っている話と似た作品だ。はつきり言

って日常描写のどうということのない

作品なのだが、3・11以後の騒然たる

日本にこんな牧歌的な世界が残ってい

ると印象が深かったのだろう。

C「汚染地図6 川で何が起きてい

るか」(6・10放送)は阿賀野川と阿武

隈川の放射能。一連の作品のなかでは労

作だが地味だ。克明に追いかけているの

だが、川をとおして広がったのだとい

うことがどこまで伝わったのだろうか。

D 川の水に放射能は検出されないの

だが、川底の土から検出される。それが

海へ行けば海の汚染になる。この作品の

前に海の汚染をやった。

ムだ。

C これまでは〇〇大学〇〇学部の研

究だと上から下りてきたデータでやっ

ていたのだが、これは権威の裏付けなし

で始めた調査で、ジャーナリズムが関わ

ってやっているこんな調査は他にない。

この番組で過度に隠すとどんなことに

なるか、国がわかってくればいいのだ

が。

D ETV特集「飯館村1年〜人間と放

射能の記録」(6・24放送)もいい作品

だった。石原大史さんがずっと飯館村に

はりついて作った。

A 報道の魂「バジとペンと日隅一

雄の闘い」(TBS6・17放送)は急ご

しらえて放送してしまっただけという感じ

だ。反原発の訴訟で活躍した弁護士で

49歳でガンで亡くなった。動画サイトで

で東電の責任を迫及したと若い人に人

は一般に教えられていなくて、ほとんど

の女性が知らない。

A 数年前倅田来未が「35歳過ぎると

子宮が腐る」と発言して激しいパッシン

グを受け、謝罪したが、卵子を子宮と誤

解したにしても、いまネットには彼女

への謝罪メッセージがいっぱいだ。番組

も倅田来未の事件から始めると注目さ

れただろうに。(笑)

B Nスベ「原発事故調査解明された記

述、残された課題」(7・24放送)はつ

まらなかつた。政府、民間、国会と3つ

の調査が揃い、政府には柳田邦男氏が入

っているのだが、その割には抽象的な話

が多い。その前に放送されたメルトダウ

ンを扱った「連鎖の真相」(7・21放送)

が内容はしつかりしていた。

C 原子炉の中の水位が、計器がダメで

間違えていた、というのは驚いた。温度

調にないくらいいいスタートを切った。

これからどこまで息長くやれるかだ。

D 「ザ・ベストテレビ」というのはでき

て数回になる。放送文化基金賞、ギャラ

クシー賞、民放連賞、芸術祭賞、ATP

賞など、放送界の各賞の受賞作を民放で

はたまに放送することはあったけれど

ほとんどない。それをNHKがプレミアア

ムで6月26日から30日まで午後2時〜

6時で次々に放送した。他にないのだから

これは続けて欲しい。

A これは民放の地方発の番組を見る

非常にいい機会として定着した。ラジオ

もいま「ベストラジオ」をやっている。

NHKにはそんな役割もあると思うが

地方発のいい番組を視聴できるいい枠

として定着した。

B 民放BSの番組編成はなんとかな

らならないのか。全く工夫がない。

なかったかを克明に追っている。ポルトガルの武官やスイスの武官の電信をはつきり示している。しかしその情報を軍の中樞は外務省に伝えなかったし、陸軍、海軍、外務省が集まった6者会議にも伝わらなかった。

B 服部卓四郎が油をとるために南京から仏印經由で何千キロという進軍を計画したが、当時の中国の日本陸軍は形骸化してダメなのだと言った。梅津は天皇にじかに上奏している。

C あの話は初耳で驚いた。

D あれには辻正信も参画している。ピルマの援蔣ルートに似ているが途方もない大風呂敷で、二進も三進もいかない。

もうダメだということは天皇も知っているはずだ。その梅津と天皇がいる6者会議だ。あの6人のせいで日本人の60万人が死んだ。3月の東京大空襲、沖縄、ヒロシマ、ナガサキ、実に罪は深い。

A 庶民レベルの実感では3月10日ですでに気分は厭戦だ。負けるとかではなくて、そこはもう焼野原なのだから。負けるというイメージはない。明治以降日本は国内のタテマエは連戦連勝で負けたことがないから、どんな負け方にするかなんて考えられない。

B 「何故早くやめられなかったのか」と問いかけているが、そのことをこの国はちゃんと学習していない。ちゃんと負けていないままなのだ。アメリカに負けたが、日中戦争に負けたと思っただけでいい、満州・朝鮮からの引き揚げはソ連のせいだか思っている。この番組の問いかけはここまで及ばなくては番組とし

て完結しない。

毎年終戦、原爆の番組があるが、そのときどきで輪切りにするのでなく、時系列を踏まえたドキュメンタリーが欲しい。全々の戦後から戦後史を見ている人もいるのだから。

C ただ戦後処理として天皇の名前を使わなければ収まるまいという意識、天皇に勅語を読んでもらうというプロセスについては共通していた。最後は利用したわけだ。

D 占領軍も利用した。

A それを更に突っ込もうとすると天皇の戦争責任を問題にしなければならぬ。

B これからの夏のジャーナリズムの中心である天皇の問題は日本の国としてやっておくべきだろう。

C 勇気が要るなあ。

D 新聞がこの番組を論説、記事を含めて全くフォローしていない。

A 終戦のものに限らず新聞の社説の論調は低くなっている。

B いろいろあって天皇ご聖断をリアリティーなく描くしかない。

C この番組で鼎談した加藤陽子、岡本幸夫、姜尚中がよかった。姜は終戦の決定の遅れは統治機構の問題だとし、原発の無責任さに似ていると発言した。

D 彼は統治機構の問題として誰がリーダーシップを持っているのかはつきりさせろ、蝸壺を掘ってセクシヨナリズムに陥っているのを改めろ、と言うのだが、あるところから抽象論になってしまふ。もう一歩具体的に突っ込めればと思

った。

A その点岡本幸夫はリアリストだから。実感でずばっとものを言っている。

B 「巨大戦艦大和と乗組員がみつめた生と死」をみたが、好戦的な番組だと思

った。これまで何度も放送、映画など多くのメディアで取り上げられた素材だが、今回は生き残りの艦員たち（90歳前後）の下級水兵や遺族の証言を中心に戦死者と生き残りに焦点を当てたのが特徴。「大和」乗組員が決まったときには優秀さを認められて選ばれたこと喜び、生き残って「死にぞこない」と引け目を感じ、それでも「戦争はいやだが、大和は好きだ。惚れ惚れする船だった」

「あれでも大和の生き残りかと恥をかかないようにしたい。それが私を支えてきた」などの言葉が気になる。

C 大和の建造が昭和12年から始まり、16年に完成しながら巨大砲は一度も発射されなかったこと、建造当初から海軍内部で大艦巨砲主義に対する批判もあったこと、宇垣纏の率直な記述なども紹介され、若い世代の俳優をナビゲーターに使う工夫もしていた。

D いや、面白くみた。吉田満の本を読みなおしたが、彼の舞台は艦内に士官が集合する部屋・ガントリーで、そこには水兵は入れず将校がウイスキーを飲みながら議論を戦わせる場所だ。大和の乗組員3000人はほとんど実戦経験がない。それがあの日「海上特攻で沖繩へ向かう」と告げられる。その衝撃はタ

イタニックの衝撃に似ている。日本の中でも実に不思議な戦争をした軍艦だ。悲

惨で愚かで、切ない。

A 吉田満の記述は平家物語の語り口に似ている。中納言知盛が「見るべき程の事は見つけいざ自害せん」と海に入る語り思い出す。吉田満は電測兵の将校で情報を持っている。ガントリーでは「世界の3馬鹿、ピラミッド、万里の長城、そして戦艦大和」だと大和を罵倒している。白洲大尉は「大和1隻の建造費で数百の飛行機が作れた。日本は技術を軽視し過ぎた」と言う。いままでの「大和」

はなにがしかの「大和」信仰の中で語られてきた。この番組で証言しているのは全員当時20歳前後の新兵だ。最下層の兵の体験談だ。いま90いくつかで、生きてるんだね。「大和はオレの青春だ」などと語って、元気なんだ。

B だから好戦的だと言うのだ。吉田満の作品もこれまで何度も好戦的だと言われた。

C 陸軍からは「連中は何だ。大和ホテルに武蔵旅館だ」とからかわれている。それに対して海軍の方だっていつかは伝家の宝刀を抜いてやる、という気持ちはあった。それで特攻出撃を命じられた方はたまったものじゃない。

D しかし、戦争はいやだが、大和は好きだ、というのはどうなのか？

A 当時、東京では大和、武蔵は知らなかった。隼とゼロ戦だ。戦争も終わりのころになって「日本にはまだ大和と武蔵があるんだ。46サンチ艦砲射撃は東京から大船まで届く」と聞かされた。

B あの乗組員たちは死に損ないの人生を戦後60数年生きていく。「大和に乗

っていた」ということだけは唯一の誇り、
抛り所なのだ。そう意義づけようとして
いるのだ。

C だからやはり好戦的だ。自己批判は
ない。戦争を肯定している。

D そこを否定したら、彼らは単なる死
に損なうになってしまう。そんな自虐て
な人生はおくれない。

C 死に損ないでいいんだよ。大和に乗
っていない死に損ないはどうなるんだ。
特攻隊で死んだ若者たちを美しいと賛
美するのと同じで、大和を賛美するのは
好戦的なのだ。

D 職場の苦労話をして自分の人生を
語るとき、たとえば東京電力の社員は自
分の会社を悪くは思わない。それと同じ
感じを受けた。職場の楽しさというのは
あるだろう。

A 昨日バブルの楽しさという番組を
やってた。

B 終戦秘話をやると天皇はどんどん
いい人になって行く。S A I N T (聖)
になって行く。それはちよつと気持ち悪
い。天皇のご聖断が日本を救った、軍部
が天皇を利用して軍国主義を築き上げ、
その呪縛で戦争をやめられなくなった、
そこに天皇が救いの手を差し伸べた、と
いうのは「ホント?」と言いたくなる。

C 統帥権の問題だろう。陸軍、海軍軍
令部、参謀本部を通じた奏上のシステム
を作った。日本近代の40年を司馬遼太
郎は「異胎化した日本」と言う。日清、
日露以降、日本は変な道を歩いた。あの
6人の会議をみても軍は「統帥権がある
のだから最後には天皇に抱きついて利

用すればいい」と考えている。あの会議
から降伏の道は出てこない。

D 「池上彰の戦争を考える」戦争を起
こした独裁者と日本に起きた熱狂」(テ
レビ東京8・12放送)は日本の戦時下
の暮らし、国民の国の命令に対する服従
から始まって、ヒットラーへの熱狂とア
ウシュビッツの惨劇、リビアのカダフィ
ー政権の崩壊の跡の3題断だ。

A 池上は「日本は独裁者なき独裁国家
で、誰も責任をとらない無責任体制だ」
と言う。明治維新では御神輿を担ぐよう
に天皇を利用した。3月10日の東京大
空襲でどんなひどい状態なのかは天皇
は知っている、6人も当然知っていたは
ずだ。悪たくみを含めて何か考える奴は
いなかったのかと、いらいらしながらあ
の「終戦はなぜ」をみた。

B いなかったんだね。

C 早くから天皇に直言していたのは
高松宮だ。軍部の若手の協力を得て終戦
工作についても直言していた。それを天
皇は拒否した。

D 今自民党の憲法調査会が考えてい
るのは天皇を元首に戻すことだ。

A あと10年のうちに天皇問題を狙上
に乗せなくてはこの国はダメになるぞ。
B だんだんメチャクチャな放言にな
ってきた。(爆笑) 次へ行こう。

A 民放の終戦ものでは「8・15終戦」
記者たちの眼差し」(TBS深夜)が光つ
た。「昔、昔戦争がありました」と記者
が問いかけるオムニバス・ドキュメント。
街頭インタビューで戦争の風化を思い

知らされたJNN系列の20人あまりの
記者たちが一人称で語り、地元の戦争遺
跡を掘り起し、都会では見えにくい戦争
の傷跡を戦争考古学的に証言する。毎年
続けてもらいたい。

【教養番組】

B 一応、教養番組としたが、企画型ド
キュメント、知的エンタなどしぼった。
「日本人は何を考えてきたのか」はフア
イル①と②の2つになっていて、①は正
月から、②は7月にやった。フアイル①
は二人のリーダー、福沢諭吉と中江兆民、
田中正造と南方熊楠、幸徳秋水と堺利彦
などを扱い、7月のフアイル②では内村
鑑三と新渡戸稲造、吉野作造と石橋湛山、
河上肇と福田徳三、柳田國男と折口信夫
などを扱った。

C 関東大震災の被災調査を学生と行っ
た福田徳三は「私は生存権本位の社会政
策を主張して久しいが、復興事業の第1
は人間の復興でなければならぬ」と東日
本大震災にも通じる言葉を残している。

D まだフアイル③があるらしい。ディ
レクターが勉強させられる良い企画だ。

A 番組をみると石橋湛山は凄いこと
を言っている。清沢汎もだがよく牢屋に
入れられなかったものだと思う。

B 「さかのほり日本史」は現代史を知
らない今の世代がどこで食いついてく
れるか試している、その効果だ。

C 「さかのほり」より「BS歴史館」
(BSプレミアム)が最近充実している。
磯田道史や加来耕三など歴史学者、時代
小説家などの座談の進め方が面白く、司

会の渡辺真理が冴える。

D 歴史の見方、人物の再評価など新し
いことを多く教わる。

A 保科正之を見たら大河ドラマの主
人公に似たくなった。

B 新選組は最初の軍隊だった、という
解説は新鮮だった。

C 「からタモリ」ははまると面白い。石
垣や江戸の水運がそうで、東京の今の地
層の下に隠れているものが見えて驚く。

D 「バリバラ」は先日セックスのこと
を扱って衝撃的だった。ふつうテレビ番
組では抽象的な表現になるが「バリバ
ラ」では個別に具体的、即物的で保守的
な人間はとも見えていられない。あれで
苦情や抗議がこないのは社会が変わっ
たのだと痛感する。

A 前より見やすい時間帯の放送にな
り、内容が大胆になった。

B バリアフリーがなんだ。「俺は障害
者だ。そこどけ!」という感じはちよつ
とある。健常者の番組ではできないこと
ができちゃう。

C そこまで次元が深まってきている
のだろう。活字ではもう10年前から障
害者のためのセックスサービスの本が
いくつか出ている。これは健常者が書い
たもので障害者への気遣い、遠慮がある。
「バリバラ」はそれでは意味がない、と
踏み込んできている。

D 「スイエンサー」はバラエティー教
養番組。仮説を実験で裏付ける発想の勝
利だ。
A 「地井武勇さん追悼スペシャル」
(8・11TV朝日)は3時間、いろんな

なひとが葬儀に参列していた。「ちい散歩」の歩きはタモリとも違う。今度加山雄三に代わったが若大将は若大将だ。若大将は下町に似合わない。地井は普段着でさりげなくうまい。火野正平の自転車の旅に近い。

B 地井武男は脇役役者の散歩の面白さだ。俳優地井でなく庶民の散歩の地井という地位をあつて獲得した。

C 「猫の尻尾・カエルの手」(NHKプレミアム)は不思議な番組だ。ベニシアさんはイギリスの貴族の娘で京都大原の古い民家に住んでいる。京都にはいろんな職人がいるがベニシアさんのところに集まる人脈が面白い。

D バラエティー的教養番組や教養番組風バラエティーが増えた。民放でもまわっている制作プロがエンブラ経由でNHK外制枠に導入しているフシがある。

A 逆に民放の連中はNHKバラエティーに刺激を受けているらしい。

【ドラマ】

B 社会現象化したり、流行語が生まれたりする連続ドラマが皆無。せいぜい「家政婦のミタ」ぐらい。

C 「かしこまりました」と、笑わず、媚びず、完璧に家事をこなすミタの目から「ホーム」の虚構を暴く。

D 「開拓者たち」を挙げたい。中国ものに強いテムジンと組み、満蒙開拓移民団の運命を実話をもとに描く。逃避行、抑留所、戦後の入植地での苦難と実在者の証言を交え巨視的な目、微視的な描写がうまく融合した力作。セミ・ドキュメン

タリーとも違う。

A 全般的に言って連ドラの温度が急速に低下している。一例が「クレオパトラな女たち」「家族のうた」が低視聴率ゆえに放送回数を短縮した事件だ。「鈴木先生」が平均3%にもかかわらず貫徹して結果成功したのと対照的。数字主義にしがみつく時代ではないのに。

B F1時代は去り、いまや連続ドラマは年配層とジャーニーズおっかけテイーン世代嗜好とに分断された。両者に共通するのはコア・ファンがリードしていることだ。繁華街の行列店現象に似てコアな物好きがとりあえず並んでみる。もちろんすぐに陳腐化するのには分かった上で。

C 行列狙いに失敗すれば回数短縮。**B** 「とりあえずビール」じゃないがとりあえず録画の対象だ。地デジ対応テレビのコンテンツ録画で「週間のご無沙汰」がナンセンス化した。

A タイム・シェアとタイム・シフトによる視聴者行動の激変でナショナル・メデアの旗頭であった連ドラは「とりあえず」録画保険でツンロクしても話題にならなければ見ないで消される運命。プロ野球が衛星に移転したようにドラマも考えなくては。

B しかし、DVD、映画化の道もある。大森啓史のように有能なマルチ型演出家はフリーになり「ハゲタカ」や「龍馬伝」の役者を映画で起用する。

C 「平清盛」は低視聴率でとやかく言われるが、面白いという人も多い。大河歌舞伎に風穴を開けた。

D あの人間関係は難しい。天皇、上皇、摂関体制、藤原と平家、源氏、これが複雑にからみあって保元、平治の乱と歴史は動いて行くのだが、あまりに登場人物が多すぎる。

A 清盛には子どもが10数人いる。それだけでも大変な人数だ。先妻、後妻、妾、愛人、みんな紹介しているときがない。(笑)

B 土曜ドラマ「永遠の泉」(6・16 NHK)は金子成人のホン、寺尾聡主演。病人をかかえて登山する話。人生の最後をどう過ごすかがテーマだが見ていてドラマに没入できなかった。

C 「終着駅」トワイライト・エクスプレスの恋(3・20 TBS)鎌田敏夫のホン、佐藤浩市、中山美穂出演、演出鴨下信一。日本海沿線をロマン特急と同時進行のラブストーリー。

D 大阪から札幌までの列車の最後尾の車両の値段の高い大きな部屋をとつての大人の心理劇。最近あまりない冒険的なドラマだ。鴨下らしく一つ一つのカットの切れ味がいい。

A 「カエルの王女さま」(フジ4・12)は天海祐希を使うならミュージカル風にすべきだろう。もっと活躍できるはずでもったいない。ドラマの作り方が古い。

B NHKの地方局の〇〇周年記念のドラマが20本ほど放送されたが大分局の「無垢の島」(5・5)がよかった。三島由紀夫の「潮騒」を思わせる作品でギヤラクシー賞の月間賞にノミネートされた。

C 「悪女について」(TBS)だが、プ

ロデューサー八木康夫、ホンが池端で演出鶴橋康夫。この3人が「沢尻エリカ」というタマをどう料理するか。

D かつて浅丘ルリ子を演技派に仕立てたように「沢尻神話」が生まれるかどうかがキモだった。はつきり言って沢尻は応えてくれなかった。彼女にはスキヤンダラスな週刊誌虚構を逆手にとつて演技化するチャンスと捉える才能の有無が問題だった。手練れの3人は彫琢に努力した点は分かるんだが。

A 「リーガル・ハイ」(フジ4・17)はどこが面白いのかわからないがいつも見た。

B あれは「鈴木先生」を書いた古沢良太の脚本。彼は「相棒」もかなりの本数書いていて、向田邦子賞、ギヤラクシー賞など受賞している。うまい人だ。「リーガル」は突拍子もない話だがホンのうまさで見せた。

C 何といつても堺雅人の怪演だ。「篤姫」の家定役もそうだった。

C ホンといえは中園ミホの「はつ恋」がうまい。一時女性に大評判になった「セカンドバージン」に似た感じだ。

D 「梅ちゃん先生」はダメだね。しかし視聴率がいい。22%、オリンピックのときは24%。天然ボケ梅ちゃん頑張れ！なのか。

A わが家も毎日悪口を言いながら見ている。でも見ているのだから凄いな。

B 「カーネーション」の小原家はいわばテレビの「なでしこジャパン」だったが、「梅ちゃん先生」の下村家にはがっかり。

C 不機嫌な父親(高橋克実)は「寺内貫太郎」どころかCM「白戸家」の白犬パパのコピーだ(笑い)

【ラジオ】

A NHKのFMシアターをこのごろ聞いている。高木凛さんがハツ場ダムを示唆して書いたドラマ、「幻の村」(6・9)、真銅氏の「木の上のキジムナー」を聞いた。キジムナーは沖繩の妖精で、戦争中兵士が木に登ってキジムナーと自称して生き延びたという。

B 「木の上の軍隊」という井上ひさしの芝居がある。あれと同じ素材だ。

A 橋爪功の一人芝居「男の話」(8・13)は大阪のガード下に住む元板前のホームレスが語る一生。

B FMシアターはがんばっている。吉田秀和の1時間の音楽番組は彼が亡くなったあとしばらく再放送をしていた。このクラシック番組を聞いてFMシアターを聞く土曜日の夜は至福の時間だった。

B 土曜日の午前中はTBSの永六輔。午後は久米宏の「ラジオなんですけど」で1日ラジオとつきあえる。

C テレビのは土曜日はずまらないから。

D 「ラジオビタミン」をやっていた村上信夫は定年になったが前に組んでいた鎌田實と文化放送で日曜日にやっている。鎌田氏は「ハッが岳山麓日記」というブログで毎日発信している。鎌田氏は被災地などへしょっちゅう出かけているんな情報があるが、そのブログで先

日アクセスがついに700万カウントを突破したとやっていた。文化放送は東京ローカルだがネットは全国で、プログラムのせいで文化放送に全国から投書が殺到する。通信と放送の融合だと言えりかな。ラジオの聴取率は大きしたことはないがそれで測れないものがある。

A ラジオの影響も大きい。家庭内ラジオはいまやラジオやスマホだ。音が断然いい。

B デジタルラジオがどうなるだろう? ラジオがあまりに普及して、デジタルがアナログに代わるのは大変だ。

C 災害報道もあるし、民放ラジオはデジタル化をやりたがらない。

D スイスでは国際放送は短波や地上波を一切やめていきなりネットに流している。これからラジオは映像を含めた音声サービスとして生き延びるのか、難しい。地デジの空きチャンネルの周波数は高い方はNOTTVなど利用が始まったが、低い方はこれから決まる。1つは映像も含めて防災。宮城や葉山で実験が始まる。イギリスのラジオは2015年にアナログを全部やめてデジタルだけにする計画だ。

A NHKの村上信夫のあとの番組は民放化して、女が二人つまらなくべちゃべちゃ喋る。

【オリンピック】

C 自分の事をバカだとおもいながら午前3時のサッカーを起きたしてみた。

D 男子サッカーのラジオ中継対スペイン戦を深夜、初めて聞いた。

A 女子サッカーはついに全試合みた。

B 日本がいま大変なときにサッカーをみていていいのか、と言われたが、長い目でみると、日本の政治の現状よりサッカーの方が大事かもしれない。取るに足りないのはどちらだ。

C 世界でオリンピックの視聴率が一番高いのは多分日本だ。アメリカはいろんなもともと低いし、ヨーロッパは興味を持つ競技が限られている。どの国もテレビを見て興奮なんかしない。アジアは中国も韓国も自国の選手が活躍する競技の視聴率は高い。全般に何でも見て、興奮し、「国民に感動を与えてくれてありがとう」という国はない。

D ふだん見ないアーチェリー、ホッケーもみた。面白い。

A 前には、メダルが取れる可能性もないのにあんな大人数を派遣することは、との意見があったが、今回は意外な競技が取った。

B ネットで生中継が一番多く流れたオリンピックだ。IOCとNHK民放のコンソーシアムでやっているが、その中にネットの権利が入っている。放送局はネットに流すと放送が見られない、とあまりやらなかったが、今回はNHKも民放もせつせと流した。オンデマンドの客がついてきていることも背景にある。それがテレビの視聴率を引き上げたという説が強い。

C 新聞記事には「初のソーシャルメディア五輪。ネットで生中継、選手のおぶやきも奨励」と出ている。ツイッターを見てテレビを見た人もいる。



(右から藤久、河野、堀川)

(左から松尾、前川、鈴木)

D 今回、メダリストたちは、一様に、このメダルは自分が勝ち取ったとは言わず、応援して頂いた皆さんのおかげ、このメダルは私一人のものではないと、全員が優等生的発言。誰かが振り付けを行っているのではないかとかんぐつてしまう。チョー気持ちイイが懐かしいほどだ。何故、このように、自分を消し去り、他人、所属する団体を立てるのだからか。ひところの、自分が楽しめたからよかつた風の天真爛漫さが消えうせている。この時には、世の大人たちの矍鑿を買ったのだが、この自分が楽しめた発言は長らくスポーツ界に存在していたはずなのだが。時代は確実に変わって来たのではないか。

A 銀座パレードに50万！戦前を知る者には「南京陥落」の花電車や「奉祝二六百年」の提灯行列と重なる。むしろ原発反対の金曜デモに共感する自分がいる。

B パレードにひそむ政治的マニユビレーションと草の根金曜デモ。対立する街頭風景を中和するのがスカイツリーさわざ。

ではこのくらいで。

【座談会出席者】 伊藤雅浩、隈部紀生、河野尚行、鈴木典之、藤久米、堀川とんこ、前川英樹、松尾羊一、渡辺敏史(書面参加)

日時・8月24日(金)午後2時〜6時

新刊紹介

テレビは何を伝えてきたか

植村鞆音、大山勝美、澤田隆治著



副題に「草創期からデジタル時代へ」とあるように、単なる回顧座談会ではない。オーラル・ヒストリーにもとづいたテレビ史で、「月刊民放」に長期連載された当時から単行本化が期待されていた。オーラルが面白いのは、文章にありがちな形容詞がないこと、ときによって主語がない、そんな語りの融通無碍な展開で渦中の話題がどっちへ転ぶか、転んだ先に予期せぬ秘話の花が咲くことだ。理路整然とした山積する「テレビ史」の欠落、落丁を埋めるどころかむしろ実感的エピソードに満ちたテレビ人史になっている書。(ちくま文庫 950円)

「走れ!ケー100」の青春

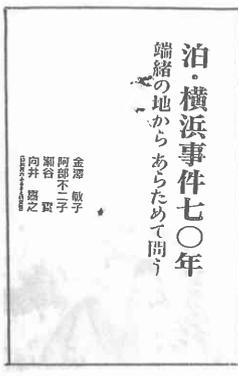
高石朝夫著



淡谷宮益坂上の交差点角のビルに制作会社C・A・Lがあった。そこからフィルムドラマ時代のパックケージドラマが量産されていた。「水戸黄門」「木枯らし紋次郎」などの他に児童向けのピログラムピクチャーを量産していた。古い豆機関車の車体に自動車のタイヤを付け、鹿児島から北海道まで旅をするロードムービー、それがケー100で、そんな突拍子もない企画に熱くなるプロデューサーやスタッフがからむ珍談、奇談を小説化。草創期テレビの苦心談の中に青春時代の現場の一齣がホロ苦くユーモラスに描かれた1冊。あまりに面白いので一気に読了した。(M)

泊・横浜事件七〇年、端緒の地からあらためて問う

細川嘉六ふるさと研究会(代表・金澤敏子)著 梧桐書院



治安維持法下最大の言論弾圧事件となった「横浜事件」の発端から冤罪判決獲得までの苦節七〇年の経緯が、中心人物とされたジャーナリスト・細川嘉六を柱に詳細に記録された一級資料。

金澤敏子さん(当会会員、元北日本放送)は、事件の発端が生家の隣町(富山県泊町)の小さな慰労会だったことを知って興味を持ち、現役時代にテレビドキュメンタリー「一枚の写真が」を制作(平成19年)、注目された。「一枚の写真が」のタイトルは慰労会のスナツプが地下活動の打ち合わせの証拠とデッチ上げられた意で、この泊会合の記述が生々しく臨場感に富むのは、地元研究者たちの熱意と博搜の反映だ。

≡ 本体2000円 ≡ (S)

慶州案内①

慶州はカタカナで書けばキョンジュ。BC57年ごろ、新羅の前身ソラポルの王朴赫居世が都と定め、以降56代992年間続いた。市内は文化遺産だらけ。世界遺産が、まず仏教遺跡の仏国寺と石窟庵、2番目が古墳遺跡を多く含む慶州歴史地域、そして両班の民族村良洞村である。



写真は石窟庵の仏さま。新羅仏教美術の最高峰と言われている。市内循環バスで仏国寺停留所下車、石窟庵へのシャトルバス。仏国寺は紫霞門、三層石塔の釈迦塔と多宝塔が必見。

あのカメラさん、いまだ現役

武本宏一

万年青年、という言葉があるが、この人はまさに万年ラジオマン。

もとニッポン放送のパーソナリティーでのち社長までつとめた、通称カメラさんこと亀淵昭信さんを、このほど「放送人の証言」の証言者として、この8月25日にカメラの前に迎えることができた。とても嬉しく、感無量である。

というのも彼は、私がTBSラジオ時代の1967年に、ディレクター兼番組命名者としてスタートさせた深夜放送「日産パッケインミュージック」の最強ライバル、LFの「オールナイトニッポン」のエースDJとして登場、かねてからマークしていた一人だったのだ。

松尾羊一さんの推挙を受けて、私が「出演交渉」したところ快諾してくれた。

「NHKは別として、今まで民放ラジオの証言者は少ないようなので、自分の経験をしやべることです。少しはその辺の穴が埋まればいいですね」とのことだった。

収録を始めると話は、自分が学生時代に高崎一郎さんの知遇を得て社員になったこと、サンフランシスコ遊学での見聞、「オールナイトニッポン」担当中のエピソード……と果てしなく拡がったが、やがてあのライブドア事件のことに移った。

「いやあ、あの時はたまたまニッポン

放送の社長をしていたので、テレビなどに露出が増えただけです。ボクの顔が……そうしたら急に、ボクの家にはハガキが沢山届くようになった。

なんと、激励のハガキなんですよ。

「久しぶりにカメラさんの顔をみました。昔よく聴いていましたよ。ホリエモンなんかには負けないで、頑張ってください」なんて書いてあるんですよ」

嬉しそうに語るカメラさん。こちらが内心期待していた、あの株買収事件の内幕話は微妙な問題ゆえか不発で、少々はぐらかされた気持ちになったが、反面、どんな立場になっても変わらない、ラジオパーソナリティーの心情が吐露されていた。

リスナーあつてのパーソナリティー。「こちらにリスナーがいて、現実社会があつて、その間をとりもつ媒介者がパーソナリティーですよ。メディア、その媒介者の意味ですが、ラジオはまさに天地をとりもつ、イタコみたいな媒介者。一人暮らしも増えている今、あたたかい声だけのメディアあつてとても重要だと思いますよ。」

そしてカメラさんは、ラジオを野球にたとえた。

「ラジオは一番バッターなんです。街のどこどことか流行とかを、とにかく真つ先につかまえて出塁する。それをテレビとか新聞とかが、3番打者、4番打者で大きな点を取ってくれればいいんですよ。」

そのカメラさん、なんと今もなお、現役パーソナリティーとして、NHKFMで

レギュラー番組を持ち、元気に「出塁」中だ。
貴重な民放ラジオの生きた50年史を越えて、未来のラジオへのヒントが満載の、現役ラジオマンの証言であつた。

イムジン河〜2012〜

田中秋夫

私が開局直後のFM NACKの編成責任者だつた頃、積極的に各種の番組コンクールに出品し、結果としていくつもの賞をいただくことが出来た。その作品の一つが、ドキュメンタリー番組「イムジン河〜2001」である。この番組は平成13年度の日本民間放送連盟賞のラジオ教養部門の最優秀賞を受賞している。この作品は、1970年頃、フォーク・クルセーダーズがライブ会場で歌っていた「イムジン河」を題材に取り上げている。この歌は団塊世代を中心に広く知られた歌で、朝鮮半島の南北国境を流れるイムジン河をモチーフに、民族の分断の悲しみを歌つたものである。

番組構成は元フォークルのメンバーだった北山修や、作(訳)詞者の松山猛氏の証言により、この歌が生まれたいきさつから始まり、突然レコード会社による「発売禁止」「要注意歌謡曲」指定になった経緯。その後、北朝鮮と韓国の複雑な情勢を経て、韓国でも歌われることになり、さらに30年後の日本でも再び歌われるようになった背景等を取材し、構成したものである。先日、私が講師を務めている日大芸術学部放送学科の学

生たちにこの作品を聞いてもらい、感想を書いてもらった。20歳前後の彼らにとって「フォークルセーダーズ」の存在については全員が知らなかったが、「イムジン河」の歌については、「聞いたことがある」との反応が多かつた。そして、学生全員が感想として「このドキュメンタリー作品に感動した」と書いていた。特に強く反応していたのは、学生の一人、在日韓国人の女子学生だつた。彼女は感想で「イムジン河の歌詞で『誰が祖国を二つに分けてしまったの』という部分に衝撃をうけました」と書き、「番組中、ライブでフォークルが『隣の国について無関心でいることはやめて下さい』』という言葉がありました。胸をうたれました。日本人の方がこのように思っているのに、在日韓国人の私が関心を持っていなかったと感じました」と書いている。

今、「尖閣諸島」「竹島」「北方領土」等、日本を取り巻く国際情勢は、国境問題をめぐって揺れている。その結果、再び日本で「国土防衛」が声高に叫ばれ始めている。きな臭さを感じるのは私だけだろうか? 「イムジン河2001」の後半で松山猛氏は次のように語っている。「地理的な意味ではなくイムジン河は『人と人の間に横たわっている冷たい河』かもしれない。理想論にすぎないかもしれないが、ちよつと立場を変えてみると、解決出来る問題のように思いたいし、そちらの方向に人間は歩んでいくべきだ。ということをおの曲から感じてほしい」と。

いろはに時代劇とその式

菅野高至

今にして思うと、私と脚本家の竹山洋さんは、原作の「三屋清左衛門残日録」を時代小説として読んではいなかった。時代劇ビギナーゆえ、時代劇を取っ払い純粋に小説として読んでいた。一つ一つの純度が極めて高い短編の連作だと、素直に感じ入っていった。

藤沢ファンならずとも、誰もががしびれる、一編一編の読後感の静謐さと豊穣な余韻。純文学である。このドラマ化、山は高いぞ深いぞ、と悟った。

しかも、竹山さんも私も、46歳。A老いゆく日々の命の輝きをテーマとするには、まだ若く未熟すぎた。

私は、退職者の世代をメインに描くドラマは初めてで、守備範囲は小学校高学年の子どもから、その親の働き盛りの四十代半ばまでだった。つまり、自分に体験のない世代は描いてこなかった。

果たして想像力だけで太刀打ちできるだろうか、不安を覚えたが、今更、後には引けない……。

清左衛門の年齢設定は52歳である。人生五十年と言われた時代だから、退職し息子に家督を譲って当然だ。ちなみに、藤沢周平さんが原作を書かれたのは62歳である。

そして92年の晩秋。藤沢さんが65歳の時、私はドラマ化の挨拶に清瀬のお宅を訪ねる。すでに文藝春秋社の藤沢さん担当の編集者、萬玉邦夫さんを介して、

企画書を送り、手紙の遣り取りで、ドラマ化の許諾は頂いていた。だから、制作者の名前と顔を覚えて貰うだけだと、幾分か気は楽だった。

だが、思い出すのは、冷や汗をかいたことだけである。流行作家の応接間には、つましい部屋で、待つこと暫し、静かに二階から降りて来る。型どおりの挨拶を済ませます。物静かで口数が少ない、藤沢文学のような佇まいだった。

そんな藤沢さんは私を、「こんな若造に、三屋の何が分かるのか？」と思われたいに違いない。46歳、「暗殺の年輪」で直木賞を受賞してから9年、早くも個人全集が出る人気作家である。そもそも生きた年輪の厚みが違うのだ。しかも、清左衛門は『腕に覚えあり』(原作：用心棒日月抄)ほか)のような活劇の作りでは無い。うまく出来るのだろうか、不安だったに違いない。

だが、注文は何も無かった。「餅は餅屋だから、私は口を出さない方が良いからね」と言う。それは、小説とテレビドラマは違うものだから小説からどんな作品が出来るか、「プロの御手並を拝見しますよ」と言われたのも同じだった。いよいよ、私は後がない……。

ドラマの上司は、時代劇ビギナーの私に不安覚えたのか、演出チーフに歴戦の勇士、村上佑二を配した。村上の初演出は62年、赴任先の仙台放送局の30分ドラマだった。私の最初の出合いは大河ドラマ「花神」(77年)である。演出二番手の村上に、助監として一年余も仕えた。その五年後、ドラマ人間模様「國語

元年」(82年、作：井上ひさし、主演：川谷拓三)で、一緒に演出をする。

空手が黒帯で、酔うと武勇伝の数々を聞かされる。NHKは人使いが荒いと愚痴をこぼしながら、実に良く働く演出家で、生涯現役を貫いている。放送人の会、会員である。

さて、竹山さんである。打合せで、こゝろを伝えたいように思う。私はドラマ人間模様作りから、人間模様のような時代劇を作りたい、純文学を思わせる原作だからこそ出来る。だから、原作に寄り添って欲しい、奇を衒うアバンや、はったりはいらぬ。キャラクターも含めて、一つずつ丁寧に積み重ねて、ドラマを構成したい、とお願ひした。

もつとも、口下手でお愛想が言えない私だから、当然、持つて回って言う。

晩秋、海坂(うなさか)藩のシナハンに行く。庄内空港から鶴岡と酒田へ。一通りの見学はさておき、最大の眼目は、原作に登場の小料理屋「涌井」の郷土料理を食べることである。「はたはたの湯上げ」を食って、村上と美術の田嶋宣助は地酒を飲み、ドラマの昔話を語る。竹山さんと私は、ほぼ下戸だから、夜更けまで拝聴する。ほかにスタッフがいいたらしいが、老化で全く記憶が無い。

ホン作りの第一は、同じ釜の飯を食べ、お互いの呼吸を知ることである。脚本の生理は、脚本家の生理そのものだから、よそ行きでない息づかいを感じるには、一緒に寝泊まりして飯を食うに限る、そう今も信じている。

だが、構成打合せで、彼はアバンに短

編のピークをもつて来る。あざとい！ピークで始まった後に何を描くのか、私には想像できなかった。再び遠回しに言う。清左衛門の佇まいには、決して似合わない、正攻法の起承転結で構わない、と。

初稿の脚本が上がる。ピークから始まるアバンがあった。困った。伝えた筈なのに……。具体的に直しの道筋も、見つかからない。そもそも、骨法が違うらしいと、この時、初めて気づいたのだ。

直しの打合せで、私は寡黙になる。後に竹山さんに書かれた。

「プロデューサーは鬼だ、鬼は気に入らないと無言で、だんまりを決め込み、不機嫌になる。気に入らない箇所を指さし、『ここ……』と言ったとき、鬼は何かが言うまで待た待っている。」

(つづく)

慶州案内②

新羅27代の善徳(ソントク)女王は韓国史上最初の女王で韓流ドラマで有名。唐と結んで高句麗、百済を攻撃、新羅を強大にした。



慶州には女王の陵、ゆかりの寺院、遺跡が数多くある。写真は女王が建立した分皇寺の石塔。

間もなく慶州大会

今年も10月11日から4日間、韓国の古都慶州市で、第12回日韓中テレビ制作者フォーラムが開催されることになりました。

最近の日韓中は、尖閣列島問題、そして特に韓国とは竹島問題で外交関係がギクシャクして、その成り行きが心配されていますが、国境の無いテレビの世界では今のところ予定通りフォーラムを行い、これまで積み上げてきた3国の放送人の交流をさらに一歩深めようと、準備が進められています。

日程は10月11日〜14日まで、慶州市ドリームセンターを会場にし、今年のテーマは開催地に因んで「歴史のなかの人間」となっています。

3国からはテーマ作品と、ドキュメンタリー、ドラマ、エンターテインメントの作品各1本ずつが参加し、お互いの作品の鑑賞と討論を通じて東アジアの放送人としての理解を深めます。

参加者は3国合わせると1000人を超える規模になりますが、特に今年はテーマ番組に対するセミナーも予定され、さらに番組鑑賞と討論もジャンル別に別れて行うなど、参加者の交流が一層深まることが期待されています。

日本からこのフォーラムに参加する作品は、次の通りです。

- ① テーマ作品
 - ② 日韓中テレビ制作者フォーラム
- シリーズ 人間は何をを考えてき

たの「森と水と共に生きる」
〜田中正造と南方熊楠〜

「いのちの思想家」田中正造と、「知の巨人」南方熊楠の思想と関いを見つめる。(NHK)

③ ドキュメンタリー
津波列島〜忘れられた教訓〜

大震災を踏まえて、CSヒストリーチャンネルで放送。(東北新社)

④ ドラマ
鈴木先生

独自の教育理論で生徒たちと共に考え、問題を解決していく中学教師鈴木先生の活躍。(テレビ東京)

⑤ エンターテインメント
ほこめたて「鉄球vs壁」

どんな壁でも破壊して見せると自負する鉄球とどんな衝撃にも耐えられると豪語する壁との対決。(フジテレビ)

冒頭にも触れましたが、外交的に難しい局面に立つ日韓中にとって、11年積み重ねてきた3国放送人の交流の実績が、再確認されるような大会になることを期待したいと思えます。

(フォーラム事務局)

慶州案内③



新羅ミレニアム

パークでは新羅時代の花郎の武術、馬術のショーがみられる

第33回放送人句会

平成20年7月11日(水) 於：赤坂・麦

屋 ◇出席：伊藤親郎、鶴橋康夫、豊田

まつり、新村もとを、橋本きよし、松尾

馬笑、森治美、西川阿舟(8名) ◇不在

投句：荻野慶人 ◇兼題：晩夏、夏館、

氷水、脇役

夜更けても嬌声洩るる夏館 阿舟

かき氷姉妹とわかる崩し方 もとを

半どんや西部劇見て氷水 視郎

人呼べば残響長き夏館 視郎

妻病むは空が病むこと晩夏光 康夫

一族の系譜むなし夏館 きよし

そこかしこ脇役の顔夏の雲 馬笑

炎天も脇役なれば忍ぶのみ 治美

潮境くつきりとある晩夏かな もとを

奥の間は志功版画や夏館 きよし

夏館下着一つで雑魚寝かな 慶人

積ん説が枕がはりの晩夏かな 馬笑

ひやつくりをげつぷにうふふかき氷 康夫

薄き匙染めイチゴ色氷水 きよし

アルバムに明治の青春夏館 きよし

一人下車いわきの海に晩夏光 康夫

裏木戸の音なく聞く晩夏かな もとを

氷屋の小母さん赤痢にて頓死 まつり

脇役に芋の花咲く時もあり 不明

夏館灯りひとつで胸騒ぐ 慶人

雲乱る老いを鞭打つ晩夏光 馬笑

風鈴は風の脇役なんですね 視郎

夏館振り時計の振子を巻く 視郎

言ひにくきこと言ひてよりかき氷

もとを

いつの間に街を呑みたる晩夏かな 治美

晩夏光瓦礫の始末どうなった 康夫

脇役も寛ぎをりぬ夏館 治美

名脇役と大女優逝き夏深し 阿舟

名脇役散歩途中の氷水 阿舟

かき氷有り升の文字のど鳴りて 馬笑

海荒れて柱ばかりの氷茶屋 きよし

ほろほると晩夏の花のこぼれけり 視郎

少しづつずれたまま死に桜桃忌 まつり

戦いに敗れ晩夏の草の丈 視郎

下知が飛ぶ六波羅殿が夏館 馬笑

かき氷かき込みたればこの頭痛 阿舟

夏館戸障子開いて海の庭 きよし

嫁いちご姑小豆の氷水 視郎

節電の職場がなごむ氷水 慶人

轡とる脇役不在夏の陣 慶人

氷かく手許みつめる子らの群れ 馬笑

次回放送人句会

◇九月十二日(水) 十八時頃から、十九

時投句締切(七句投句)

◇於：赤坂・麦屋 (Fax:03-3586-0056)

◇兼題：夜長、松茸、曼珠沙華、照明(秋

の季語を入れて)

◆特別選者：星野高士氏



【あ】青木裕子 赤井朱美 秋田完 秋山豊寛 雨宮望 新井和子 【い】石井彰 石井ふく子 石高健次 石橋冠 磯野恭子 磯村健二 市岡康子 市村元 一色伸夫 伊藤雅浩 井上良介 今井義典 岩澤敏 【う】上村忠 碓井広義 臼杵敬子 歌田勝彦 宇野昭 【え】江口展之 遠藤利男 遠藤ふき子 遠藤雅充 【お】大蔵雄之助 太田敬雄 大西康司 大西文一郎 大原れいこ 大山勝美 大類啓 大脇明 岡弘道 岡田晋吉 緒方陽一 岡村黎明 小河原正巳 沖野暁 荻野慶人 小田久栄門 織田晃之祐 【か】加賀美幸子 各務孝 片岡敬司 勝部領樹 葛城哲郎 加藤滋紀 加藤迪 加藤義人 金沢敏子 金子登起世 兼歳正英 金平茂紀 加納孝夫 鎌内啓子 上安平冽子 鴨下信一 川口健一 川口幹夫 河村正一 【き】岸田功 北川泰三 北川信 北出晃 北村美憲 北村充史 木村成忠 【く】楠美昌 工藤英博 久保志穂 隈部紀生 【こ】小池勝次郎 河野尚行 児玉久男 後藤和晃 小南武朗 近藤晋 今野勉 【さ】斉藤伸久 斉藤秀夫 斎明寺以玖子 酒井美樹男 寒河江正 坂元良江 桜井均 佐々木彰 佐々木欽三 佐藤年 澤田隆治 沢田隆三 【し】重延浩 重村一 静永純一 嶋田親一 清水満 下崎寛 下重暁子 城菊子 白井博 【す】菅野高至 杉澤陽太郎 杉田成道 鈴木嘉一 鈴木昭典 鈴木克明 鈴木典之 鈴木道明 須磨章 【せ】せんぼんよしこ 【そ】曾根英二 【た】高島秀之 武本宏一 田澤正稔 田中昭男 田中秋夫 田中直人 田中則広 田原英二 田原茂行 【つ】辻本昌平 露木茂 鶴橋康夫 【と】土居原作郎 堂本暁子 戸田佳太 外崎宏司 豊田由紀子 豊原隆太郎 【な】中崎清栄 中島僚 中田美知子 永田浩三 長沼士朗 永野敏一 中村敦夫 中村克史 中村季恵 中村耕治 中村敏夫 中村美美子 中山和記 難波秀哉 【に】新村もとを 西ヶ谷秀夫 西川章 二宮文彦 丹羽美之 【の】信井文夫 【は】橋本潔 林健嗣 林裕史 原由美子 原田庸之助 原田令嗣 【ふ】深町幸男 藤井チズ子 藤田晋也 藤久ミネ 【ほ】星田良子 堀川とんこう 【ま】前川英樹 松尾羊一 松平定知 松前洋一 松本明 松本修 松本国昭 薫りんたろう 【み】三上義智 水上毅 水野憲一 三原治 三村景一 三村千鶴 宮川鏡一 三宅恭次 明神正 【む】村上光一 村上雅通 村上佑二 村田亨 【も】諸橋毅一 【や】八木康夫 矢島良彰 藪内広之 山県昭彦 山崎隆保 山崎裕 山路家子 山田尚 山田良明 山根基世 【よ】横山英治 吉澤保 吉永春子 吉村直樹 【わ】渡辺純史

新会員紹介

柴田昌平さん を経てフリー、姫田忠義の民族文化映像研究所。現在は独立。「風の橋く中国雲南・大峽谷に生きる」「森聞き」「クニ子おばばと不思議の森」(放送文化基金賞)

池田正之さん NHKを経て現在札幌大学文学部准教授。メディア論、メディア制作論。

志津木 敬(たかし)さん 大学教育学会理事。広島大学文書館調査員。龍谷大学大学院アドバイザー

慶州案内④ 左は瞻星台。善徳女王に造られた東洋最古といわれる天文観測施設。



ドラマ善徳女王のもう一人のヒーローが金春秋。高句麗へ使者としておもむき、高句麗の宝蔵王の無理難題を断固拒否、ドラマに欠かせない人物。後に武烈王。写真はその墓。



編集後記

▼恒例の夏の座談会は2時から6時まで4時間。途中食事が入るのだが、テープを起こしてみると、食事の最中も、その後ビールを飲んで喋り続けている。中身も濃くて膨大な量である。松尾さんをお願いしてパッサパッサとカットしてもらった。折角の発言が記録されていないのは編集部の責任でまことに申し訳ありません▼「反原発のデモを眺めに、日比谷から国会議事堂周辺まで歩いた。赤ちゃんを抱えたお母さん、ベビーカー、手甲脚絆で踊る若者、フクシマからの集団など実に多様。デモの前で右翼がスピーカーでがなり立てているのだが、デモの先頭には鼓笛隊がいて、この太鼓の音量が半端じゃなくて右翼に負けない……こんな発言もあった▼60年安保以来のデモだそう。当時の、渦巻きデモや、フランスデモに違っていないかにも市民デモらしい。見に行けばよかった▼「慶州案内」をこま切れにあちこちに掲載した。韓国発のCMとでも考えて眺めてください。これでフォーラムに参加したくなってください望外▼前事務局員の佐藤真美子さんに無事男の子が誕生。母子ともに元気とのこと▼ホームページのブログは少しずつアクセスが増えているらしいのが、メッセージをいただけません。メールでもFAXでもあるいは電話でもけっこうです。筆者が事務局に送ってください